

メモ：非エルミート系の対称性

塩崎 謙

August 14, 2024

Abstract

非エルミート系の対称性の定義として、エルミート化したハミルトニアンに対して通常のエルミート系の対称性の定義となるように非エルミート系の対称性を定義する方法がある [1]。この流儀についてのメモ。

1 非エルミート系

G を有限群、 G のパラメータ空間 X への群作用を gk と書く。 $\phi, \eta, c : G \rightarrow \mathbb{Z}/2 = \{\pm 1\}$ を準同型とする。行列 M に対して記号

$$M^{\phi_g} = \begin{cases} M & (\phi_g = 1) \\ M^* & (\phi_g = -1) \end{cases}, \quad (1.1)$$

$$M^{(\phi_g, \eta_g)} = \begin{cases} M & (\phi_g = 1, \eta_g = 1) \\ M^* & (\phi_g = -1, \eta_g = 1) \\ M^\top & (\phi_g = -1, \eta_g = -1) \\ M^\dagger & (\phi_g = 1, \eta_g = -1) \end{cases}, \quad (1.2)$$

を導入する。対称性として、

$$u_g H_k^{(\phi_g, \eta_g)} v_k^\dagger = c_g H_{gk}, \quad g \in G, \quad (1.3)$$

なるものを考える¹。 u_g, v_g はユニタリ一行列。すると、

$$c_{gh} H_{ghk} = \begin{cases} u_g (u_h H_k^{(\phi_h, \eta_h)} v_h^\dagger)^{\phi_g} v_g^\dagger & (\eta_g = 1) \\ u_g (v_h [H_k^{(\phi_h, \eta_h)}]^\dagger u_h^\dagger)^{\phi_g} v_g^\dagger & (\eta_g = -1) \end{cases} \quad (1.4)$$

が成立する。 $z \in Z^2(G, U(1)_\phi)$ を群コサイクルとして、

$$z_{g,h} u_{gh} = \begin{cases} u_g u_h^{\phi_g} & (\eta_g = 1) \\ u_g v_h^{\phi_g} & (\eta_g = -1) \end{cases}, \quad z_{g,h} v_{gh} = \begin{cases} v_g v_h^{\phi_g} & (\eta_g = 1) \\ v_g u_h^{\phi_g} & (\eta_g = -1) \end{cases}, \quad (1.5)$$

とすると、

$$c_{gh} H_{ghk} = u_{gh} H_{ghk}^{(\phi_{gh}, \eta_{gh})} v_{gh}^\dagger \quad (1.6)$$

が成立する²。 u, v の乗数系 $z_{g,h}$ が一致しているのは、(1.4)の右辺において位相因子をキャンセルさせるため。

¹[1]は複素共役を考慮していないが、複素共役を含む場合への拡張は容易。

²注意として、例えば転置の対称性を $u_g H_k u_g^\dagger = H_k^\top$ のように右側に転置をつけて定義すると、 g, h が転置型の対称性のとき、 $u_{gh} \sim u_g^* u_h$ となる。対称性の定義は(1.3)のように左側に複素共役、転置、エルミート共役をつけるのが良いだろう。

- $z_{g,h}$ は一般にはパラメータ空間 X の点に依存しても良い。
- 固定点 $gk = k$ において H_k 自身が群の“表現” u_g, v_g をつなぐ intertwiner であるので、固定点 $gk = k$ において点ギャップを有するハミルトニアン H_k が存在すれば、 u_g, v_g は“等価な表現”である。つまり、点ギャップを有するハミルトニアンを議論したい場合は、(1.5)に加えて、 u_g, v_g は“等価な表現”に取る必要がある。詳しくは[1]を見よ。

2 エルミート化

2重化したエルミートハミルトニアン

$$\tilde{H}_k = \begin{pmatrix} & H_k \\ H_k^\dagger & \end{pmatrix}_\sigma \quad (2.1)$$

を導入する。2重化した対称性行列も

$$\tilde{u}_g = \begin{cases} \begin{pmatrix} u_g \\ v_g \end{pmatrix} & (\eta_g = 1) \\ \begin{pmatrix} v_g \\ u_g \end{pmatrix} & (\eta_g = -1) \end{cases}, \quad g \in G, \quad (2.2)$$

も導入する。 \tilde{H}_k に対する対称性をまとめると以下：

$$\sigma_z \tilde{H}_k \sigma_z = -\tilde{H}_k, \quad (2.3)$$

$$\tilde{u}_g \tilde{H}_k \tilde{u}_g^\dagger = c_g \tilde{H}_{gk}, \quad \tilde{u}_g \tilde{u}_h^{\phi_g} = z_{g,h} \tilde{u}_{gh}, \quad (2.4)$$

$$\sigma_z \tilde{u}_g = \eta_g \tilde{u}_g \sigma_z. \quad (2.5)$$

3 実線ギャップ条件

H_k が実線ギャップ条件を満たす、つまり

$$\Re(E_k) \neq 0, \quad E_k \in \text{Spec}(H_k), \quad k \in X, \quad (3.1)$$

が満たされ、かつ

$$u_g = v_g, \quad g \in G, \quad (3.2)$$

が満たされるときは、 H_k を実線ギャップと G 対称性を保ったままエルミートに変形できる³。条件 $H_k^\dagger = H_k$ は2重化したエルミートハミルトニアン \tilde{H}_k に対する追加のカイラル対称性

$$\sigma_y \tilde{H}_k \sigma_y = -\tilde{H}_k \quad (3.3)$$

を要請することと等価 [2]。 σ_y と他の対称性の関係は、

$$\sigma_z \sigma_y = -\sigma_y \sigma_z, \quad (3.4)$$

$$\tilde{u}_g \sigma_y^{\phi_g} = \phi_g \eta_g \sigma_y \tilde{u}_g, \quad g \in G. \quad (3.5)$$

H_k に対する対称性を確認すると、

$$\tilde{H}_k = H_k \sigma_x, \quad (3.6)$$

$$\tilde{u}_g = u_g \sigma_x^{\frac{1-\eta_g}{2}}, \quad g \in G, \quad (3.7)$$

³ $u_g \neq v_g$ の場合は、射影 $P_k = \frac{1}{2\pi i} \oint_C \frac{dz}{z - H_k}$ が G 対称性を満たさないため、 G 対称性を保ったままエルミートなハミルトニアンに変形できない。

より,

$$u_g H_k^{\phi_g} u_g^\dagger = c_g H_{gk}, \quad g \in G, \quad (3.8)$$

となり, もとの対称性に戻る.

4 純虚線ギャップ条件

H_k が純虚線ギャップ条件を満たす, つまり

$$\Im(E_k) \neq 0, \quad E_k \in \text{Spec}(H_k), \quad k \in X, \quad (4.1)$$

が満たされ, かつ

$$u_g = v_g, \quad g \in G, \quad (4.2)$$

が満たされるときは, H_k を G 対称性と反エルミートに純虚線ギャップを保ったまま変形できる. 条件 $H_k^\dagger = -H_k$ は2重化したエルミートハミルトニアン \tilde{H}_k に対する追加のカイラル対称性

$$\sigma_x \tilde{H}_k \sigma_x = -\tilde{H}_k \quad (4.3)$$

を要請することと等価 [2]. σ_x と他の対称性の関係は,

$$\sigma_z \sigma_x = -\sigma_x \sigma_z, \quad (4.4)$$

$$\tilde{u}_g \sigma_x^{\phi_g} = \sigma_x \tilde{u}_g, \quad g \in G. \quad (4.5)$$

H_k に対する対称性を確認すると,

$$\tilde{H}_k = H_k i \sigma_y, \quad (4.6)$$

$$\tilde{u}_g = u_g \sigma_x^{\frac{1-\eta_g}{2}}, \quad g \in G, \quad (4.7)$$

より,

$$u_g H_k^{\phi_g} u_g^\dagger = \eta_g c_g H_{gk}, \quad g \in G, \quad (4.8)$$

となる. エルミートなハミルトニアン

$$H'_k = i H_k \quad (4.9)$$

を導入すると,

$$u_g (H'_k)^{\phi_g} u_g^\dagger = c_g \eta_g \phi_g H'_{gk}, \quad g \in G, \quad (4.10)$$

となる.

References

- [1] Ken Shiozaki, Seishiro Ono, Symmetry indicator in non-Hermitian systems, arXiv:2105.00677.
- [2] Nobuyuki Okuma, Kohei Kawabata, Ken Shiozaki, Masatoshi Sato, Topological Origin of Non-Hermitian Skin Effects, arXiv:1910.02878.